指導例2 新聞への投書　　中学校２年生

意　見　文　を　書　く

１　指導のねらい（身に付けさせたい力）

①日常の言語生活に関心を持ち、よりよい向上に役立てることができる。
②複数の文章を比較し、評価・批評しながら読むことができる。
③自分の考えを、その根拠を明らかにしながら書くことができる。

２　指導の実際

学習活動	指導上の留意点と評価
（１）新聞の投書欄（らん）に載せられていた文章【Ａ】を読む。 （２）読後の感想をグループで交流し合う。	・よく似た経験や、日常の携帯電話の使い方などについて振り返らせる。 評 進んで学習活動に取り組もうとしているか。
（３）Ｍ子さんの投書に対する石田さんの書いた意見文【Ｂ】と書き直した意見文【Ｃ】とを読み比べ、石田さんがどの部分をなぜ書き改めたかについて発表し合う。	・次の５点に気付かせたい。 ・漢字の間違いが２箇所 ・文末に「…思う」という表現が多い ・「僕は」という表現が多い ・接続語などが少ないので、文と文との関係が分かりにくい ・一段落で書かれていて、内容ごとのまとまりに分けて構成していない 評 【Ｂ】と【Ｃ】を比較しながら評価・批評しているか。
（４）新聞の投書欄（らん）に載せられていた文章【Ａ】に対して、自分なりの意見を、条件に従って書きまとめる。	・石田さんが書き直した意見文【Ｃ】の書き方を参考にしながら、文字数や段落構成の条件を確かめ、自分の意見を書かせる。文字数については、生徒の実態に合わせて調整するとよい。 評 条件に従って書きまとめているか。
（５）できあがった意見文を交流し合う。	・互いに回し読みするのもよい。 ・よく書けているものを全体で取り上げ、評価し合う。 評 よりよい言語生活に対する認識を深めているか。
（６）指導者の話を聞く。	・実際の新聞の投書欄から関心のある記事を見つけさせ、それに対する意見文を書かせる活動をこのあと展開するとよい。

▼　新聞の投書欄（らん）に載せられていた文章【Ａ】

若者のコミュニケーションはだいじょうぶ？

大津市　Ｍ子（四六歳）

先日、ひさしぶりに家族でファミリーレストランへ食事に出かけました。休日の夕食時ということもあって、店内は大変にぎやかです。

オーダーした料理が運ばれてくるまで、家族でとりとめもない話をして盛り上がっていたのですが、わたしは、お店の一角に座っている女子学生四人組の姿が気になり出しました。彼女たちもオーダーした料理を待っているようですが、四人とも一言もしゃべらずに、携帯電話の画面を開いて盛んに親指を動かしているのです。どうやらメールをしているようです。彼女たちは気の合う仲間同士で食事に来たのでしょう。それなら話したい話題でいっぱいのはずです。ところが目の前にいる仲間ではなく、電波の向こう側にいる相手とのコミュニケーションを優先させているのです。彼女たちはそれを楽しんでいるのでしょうか。以前、娘から、メールにきちんと返信をしないと仲間はずれにされるというような話を聞いたことがあります。彼女たちもそうなのでしょうか。

携帯電話やそのメール機能などは、いつでもどこでも相手と連絡が取り合える大変優れたコミュニケーションツールにちがいありません。しかし、それだけがよりよい人間関係を築いていくものではありません。まして、若者たちが携帯電話を媒介とするネットワークにつながっていないと不安に感じたり、孤独におそわれたりして、携帯電話が手放せない状況にあるというのはいかがなものでしょうか。彼女たちを見ていて少しかわいそうな気持ちになってきました。あなたの目の前には、あなたの生の声を待っている仲間がいるんじゃないですか…。

オーダーした料理が運ばれてきました。子どもたちと一緒に料理に舌づつみを打ちながら、最近学校であった面白い出来事などを聞き合いました。おいしい料理でした。子どもたちとのはずむ会話が、その食事のスパイスのひとつになったことは間違いありません。

Ｍ子さんのような経験はないだろうか。振り返ってみよう。

▼　M子さんの投書に対する石田さんの書いた意見文【B】

M子さんは、ファミリーレストランで見かけた若者たちのコミュニケーションに対して心配をしていると思う。僕は、そんな心配はいらないと思う。僕は、M子さんの見たこの女子学生の姿は、得異な一場面のものにすぎないのではないかと思う。僕は、携帯電話を持つ若者は増え、出かけた先から家に連絡をとったり友だちと約束をしたり、さまざまな場面でよく使っていると思う。メール機能はとても便利で、料金も安いためによく使うと思う。でも、僕は、携帯電話だけでコミュニケーションを取り会っていないと思う。僕は、この四人の若者たちも、ある場面では会話をはずませているだろうし、僕たちも、学校では、携帯電話を持っていようがいまいが、授業や部活動などで友だちとのコミュニケーションを充実させ、仲間とのきずなを深めていると思う。

▼　石田さんが書き直した意見文【C】

M子さんは、ファミリーレストランで見かけた若者たちのコミュニケーションに対して心配をしている。

しかし、そんな心配はいらない。なぜなら、M子さんの見たこの女子学生の姿は、特異な一場面のものにすぎないのではないかと思うからだ。

確かに、携帯電話を持つ若者は増え、出かけた先から家に連絡をとったり友だちと約束をしたり、さまざまな場面でよく使っている。その中でも、メール機能はとても便利で、料金も安いためによく使う。

だからといって、携帯電話だけでコミュニケーションを取り合っているわけではない。実際のところ、この四人の若者たちも、ある場面では会話をはずませているだろうし、僕たちも、学校では、携帯電話を持っていようがいまいが、授業や部活動などで友だちとのコミュニケーションを充実させ、仲間とのきずなを深めているのだ。

投書に対する意見文

組　番　名前

160字　　120字

条件　・次のような二段落構成の文章にすること。

一段落目は、M子さんが述べているどの部分について意見を述べるかをはっきりさせること。

（例）M子さんは、〇〇について、〇〇と述べている。

M子さんは、〇〇と言っている。　など

二段落目は、一段落目で取り上げたことについてあなたが下した判断・考え、その根拠などを書くこと。

・120字以上、160字以内で書くこと。

石田さんの学級では、新聞の投書欄に載せられていた文章に対して、意見文を書くという学習をしています。次は、その投書【A】と、授業のようす【B】、そして石田さんの意見文【C】【D】です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

新聞の投書欄に載せられていた文章【A】

若者のコミュニケーションはだいじょうぶ？

大津市　M子（四六歳）

先日、ひさしぶりに家族でファミリーレストランへ食事に出かけました。休日の夕食時ということもあって、店内は大変にぎやかです。

オーダーした料理が運ばれてくるまで、家族でとりとめもない話をして盛り上がっていたのですが、わたしは、お店の一角に座っている女子学生四人組の姿が気になり出しました。彼女たちもオーダーした料理を待っているようですが、四人とも一言もしゃべらずに、携帯電話の画面を開いて盛んに親指を動かしているのです。どうやらメールをしているようです。彼女たちは気の合う仲間同士で食事に来たのでしょう。それなら話したい話題でいっぱいのはずです。ところが目の前にいる仲間ではなく、電波の向こう側にいる相手とのコミュニケーションを優先させているのです。彼女たちはそれを楽しんでいるのでしょうか。以前、娘から、メールにきちんと返信をしないと仲間はずれにされるというような話を聞いたことがあります。彼女たちもそうなのでしょうか。

携帯電話やそのメール機能などは、いつでもどこでも相手と連絡が取り合える大変優れたコミュニケーションツールに違いありません。しかし、それだけがよりよい人間関係を築いていくものではありません。まして、若者たちが携帯電話を媒介とするネットワークにつながっていないと不安に感じたり、孤独におそわれたりして、携帯電話が手放せない状況にあるというのはいかがなものでしょうか。彼女たちを見ていて少しかわいそうな気持ちになってきました。あなたの目の前には、あなたの生の声を待っている仲間がいるんじゃないですか…。

オーダーした料理が運ばれてきました。子どもたちと一緒に料理に舌づつみを打ちながら、最近学校であった面白い出来事などを聞き合いました。おいしい料理でした。子どもたちとのはずむ会話が、その食事のスパイスのひとつになったことは間違いありません。

授業のようす【B】

中西先生　前回の授業では、新聞の投書欄に載せられていた文章【A】に対して意見文を書くという活動に取り組みましたね。みなさん、がんばって自分の意見を書こうとしていましたね。

今日の授業では、石田さんの書いた意見文（【C】）を取り上げながら、みなさんの意見文がさらに確かなものになるように、その改善点を、みんなで確かめたいと思います。

では、石田さんの意見文（【C】）をみてみましょう。ここはこうしたらよいという点はありますか？

山本さん　漢字の間違いが二箇所あるので、直した方がよいと思います。

中西先生　よく気が付きましたね。他にありませんか？

佐藤さん　文末に「…思う」という表現が多いので、文末表現をいろいろ工夫するとよいです。

中西先生　そうですね。意見文なのですから、自分が思ったという「思う」という表現は多用せず、佐藤さんの言うように文末表現を見直してみてはどうでしょうか。また、「僕は」という表現も、同じ理由から多用しない方がいいですね。

石田さん　はい。書き直してみます。

中西先生　私からは、さらに二つのことを指摘したいと思います。参考にしてくださいね。まず、……

石田さんの書いた意見文【C】

M子さんは、ファミリーレストランで見かけた若者たちのコミュニケーションに対して心配をしていると思う。僕は、そんな心配はいらないと思う。僕は、M子さんの見たこの女子学生の姿は、得異な一場面のものにすぎないのではないかと思う。僕は、携帯電話を持つ若者は増え、出かけた先から家に連絡をとったり友だちと約束をしたり、さまざまな場面でよく使っていると思う。メール機能はとても便利で、料金も安いためによく使うと思う。でも、僕は、携帯電話だけでコミュニケーションを取り会っていないと思う。僕は、この四人の若者たちも、ある場面では会話をはずませているだろうし、僕たちも、学校では、携帯電話を持っていようがいまいが、授業や部活動などで友だちとのコミュニケーションを充実させ、仲間とのきずなを深めていると思う。

石田さんが書き直した意見文【D】

M子さんは、ファミリーレストランで見かけた若者たちのコミュニケーションに対して心配をしている。

しかし、そんな心配はいらない。なぜなら、M子さんの見たこの女子学生の姿は、特異な一場面のものにすぎないのではないかと思うからだ。

確かに、携帯電話を持つ若者は増え、出かけた先から家に連絡をとったり友だちと約束をしたり、さまざまな場面でよく使っている。その中でも、メール機能はとても便利で、料金も安いためによく使う。

だからといって、携帯電話だけでコミュニケーションを取り合っているわけではない。実際のところ、この四人の若者たちも、ある場面では会話をはずませているだろうし、僕たちも、学校では、携帯電話を持っていようがいまいが、授業や部活動などで友だちとのコミュニケーションを充実させ、仲間とのきずなを深めているのだ。

一　授業で、山本さんが指摘した漢字の間違いは、どの箇所ですか。石田さんの書いた意見文【C】から、**二箇所**抜き出しなさい。

二　石田さんは、授業で指摘されたことをもとに、意見文【C】を、意見文【D】のように書き直しました。中西先生からどのような指摘を受けたのでしょうか。授業での**佐藤さんの述べ方にならって、二つ**書きなさい。

三　M子さんの投書【A】に対して、あなたは、どう考えますか。次の条件に合わせて、あなたの意見を書きなさい。

条件　・次のような二段落構成の文章にすること。

一段落目は、M子さんが述べているどの部分について意見を述べるかをはっきりさせること。

（例）MM子さんは、○○について、○○と述べている。
M子さんは、○○と言っている。　など

二段落目は、一段落目で取り上げたことについてあなたが下した判断・考え、その根拠などを書くこと。

・百二十字以上、百六十字以内で書くこと。

2

解答用紙

「投書に対する意見文」

年　組　番　氏名

一

二

・

・

三

160字　120字

◎出題のねらい
・複数の文章を比較し、評価・批評しながら読むことができるかどうかをみる。
・資料に表れている工夫を自分の表現に役立てることができるかどうかをみる。
・根拠を明らかにしながら、自分の考えを書きまとめることができるかどうかをみる。

【解答例】

一　得（異）　（取り）会って

＊【C】と【D】とをていねいに対照するとよい。

二　（例）一段落で書かれている**ので、**内容ごとのまとまりに分け、改行し、段落を構成する**とよい。**

（例）文と文との関係が分かりにくい**ので、**接続語などを使ってそのつながりをはっきりさせる**とよい。**

＊佐藤さんの述べ方は、「〇〇〇**ので、**〇〇する**とよい。**」という述べ方になっているので、これにならって二つ書いているものを正答とする。

三　（例）M子さんは、若者たちが携帯電話を手放せない状況にあるというのはいかがなものかと述べている。

これについて、私もその状況には問題があると考える。なぜなら、携帯電話に心を奪われ、自分が置かれている状況などにはまったく無関心になり、自分のことしか考えなくなるからだ。携帯電話に支配されてはいけない。

（例）M子さんは、携帯電話だけがよりよい人間関係を築いていくものではないと言っている。

私もそう考える。携帯電話はあくまで道具だ。それを使う側のしっかりとした判断や主体性が求められる。相手と直接向き合って、言いにくいことでも言葉にしなければならない場面もあるはずだ。そうやって私たちは人間関係を築いていくのである。

＊【D】石田さんのように、M子さんに反対の立場の意見文でもよい。